



## 編集月旦 2014年11月号

★師走総選挙。このままでは低い投票率で終わって、安倍政権を「したたか」といい「しかたがない」といって国民が認める結果が出たところで、なにか「経済のデフレーション（萎縮）」を脱却する力が湧いて出るでしょうか。格差がいつそう強まる世相のうらで、経済の好循環を進める当事者

として期待されない高齢者への敬意は、急速に衰落（フェードアウト）していくでしょう。☆これまでの「人生65年」時代の「定年余生」型の意識のまま、「ケア」を期待し「尊厳」を求めるだけでは、もはや先人が働きずめに働いて残してくれた“遺産”によって実現した「社会保障」は、保てないところにきています。

☆国際的にも“誇るべき長寿”をえている「人生90年」時代の高齢者として、日々を安心して過ごすには、新たな「現役長生」の意識によって、一人ひとりが「社会の萎縮（デフレーション）」を克服していかなければならないでしょう。このことは、1999年の「国際高齢者年」（どれほどの高齢者が記憶しているでしょう）以来、この国の高齢化対策の延滞を見据えてきた立場からの警鐘として、ここに選挙候補者に負けない声で呼びかけます。

★全国津々浦々で、高齢期（65歳～）を過ごしているみなさん！ 4人にひとり、3000万人それぞれが、暮らしの場で、みずから立つ（自立）べき時がきました！

☆といって、大それたことをするわけではなく、新世紀10年余り延滞してきた「日本高齢社会」形成の活動を、いま居る場所で、まずひとり立ち、三人、五人そして10人ほどの仲間呼びかける（参加）。それが全国津々浦々に小さな水玉模様のように重なって広がっていけばいい。めいわくメールをかき分けて10人ほどの仲間と交信しあい、衆口一詞「オールジャパンの長寿社会（成熟社会・超高齢社会）構想を掲げよう」と呼びかける。今はこの呼びかけに和することができる候補者を一人でも多く国会に送り出せばいい。そして来年4月の「統一地方選挙」までに、全国各地でまさに「声振林木」、みんなの心を振るわせるような大合唱にすることができれば、「日本高齢社会」の形成（自己実現）への国論が高まり定まって、達成への道が開かれるでしょう。

☆「自立・参加・ケア・自己実現・尊厳」（国連が掲げる「高齢者五原則」）は、国際的な指針であるとともに国際的に先頭をゆく日本の高齢者にとって指針であるはず。高齢者が実人生の指針として理解して、日々の暮らしに活かしていくこととなります。

★本稿が「新論考」で提案している21世紀の「長寿時代のパラダイム」は、高齢期にあるみなさんによって思考・志向・試行されながら達成に向かうものと信じます。

### 20世紀後半期の社会

### 21世紀初頭の社会

- |                  |   |                           |
|------------------|---|---------------------------|
| ・「人生65年時代」       | → | ・「人生90年時代」（65+25年人生）      |
| ・すべて支えられる高齢者     | → | ・8割は支える側の高齢者・現役シニア        |
| ・「二世世代+α型」定年余生   | → | ・「三世世代多重型」現役長生            |
| ・施設（病院）での終末      | → | ・地域包括ケア 地域・自宅で「寿終正寝」（天寿）  |
| ・還暦・古希・喜寿・傘寿・米寿  | → | ・「賀寿期五歳層」のステージ            |
| ・自閉的地閉の高齢期       | → | ・自立・参加・ケア・自己実現・尊厳（高齢者五原則） |
| ・青少年期に能力養成       | → | ・高齢初期（60～65歳）に2回目の能力養成    |
| ・団塊世代（昭和22～24年生） | → | ・平和団塊世代（昭和21～25年生）        |

★一人ひとりが長寿を喜べる「日本長寿社会」の達成とアジアに住むだれもが等しく豊かさを享受できる「アジアの共生」は、ふたつながら平和の証であり日本高齢者の課題であり本誌の目標です。（編集人 記）

